

市民オーケストラの運営に関する一考察 —新潟市北区の事例から—

長谷川 正 規*

(平成26年9月30日受付；平成26年10月29日受理)

要 旨

日本は市民オーケストラの活動が非常に盛んな国である。地域文化の活性化、芸術文化の振興、生涯学習といった視点からも、今後益々重要視されるべき分野である。本研究では、2010年に新潟市北区で設立された団体を一つの事例として、設立準備も含めた4年間の運営と活動の分析を行った。その結果、不足しがちである〈奏者・場所・資金〉に関する問題点の解決に向けて取り組みを行い、活気ある音楽活動を成功させていることが明らかになった。またこの団体の影響は、他の文化活動にも及んでいた。日本の市民オーケストラは、その数が多いとはいえ、これから作られる地域もあると思われる。参加者・聴衆・地域のニーズをよく調査し、それに合致した運営手法をとることで、より活発な活動が可能となるだろう。

KEY WORDS

市民オーケストラ amateur orchestra, 生涯学習 lifelong learning
オーケストラ運営 orchestra management

1 日本のアマチュアオーケストラについて

日本はアマチュアオーケストラ活動が大変盛んな国である。その活動の多様さから、実数を把握することすら困難であるが、社団法人日本アマチュアオーケストラ連盟（JAO）には141の団体が加盟しており⁽¹⁾、同連盟が1995年に発行した要覧には345の団体が掲載されている⁽²⁾。また、インターネットサイトFruedeには、市民オーケストラ（学生団体は除く）だけで1,000を越える団体が登録されている⁽³⁾。もちろんここに登録されていない、あるいは登録されていても休止・解散しているオーケストラも存在するため、現在の正確な数は不明である。しかし、前述のJAOは世界アマチュアオーケストラ連盟（WFAO）の事務局も務めるなど、この分野において日本は質・量ともに先進国であるといえる。

こうした活動は、今井が「アマチュア・オーケストラは、地域文化の活性化、芸術文化の振興のため、社会的な役割を果たす機能が十分備わっている」⁽⁴⁾と述べているように、演奏者自身にとってはもちろん、聴衆も含めた地域全体の文化レベル向上に貢献している。これは、コンサートホールでの演奏にとどまらずアウトリーチ活動も行う団体には、特に強く言えることである。

また、生涯学習といった視点から考えても、重要な役割を担っている。藤原は、市民オーケストラの活動を念頭に、「アマチュア音楽家のすばらしさは、対立や競争を超えたところでクラシックを弾き、生涯にわたって音楽の深さや新鮮さや幸福を体験できること」⁽⁵⁾と述べている。ジュニアからシニアまでの幅広い年代が、楽器に触れ、作曲家の知性や演奏家の表現に触れ、仲間とアンサンブルを愉しめるオーケストラは、たいへん意義のある生涯学習活動の一つといえる。

アマチュアオーケストラの活動は今後もますます重要視されるべきだが、運営上のさまざまな問題点があることも事実である。本論文ではアマチュアオーケストラの中でも、特に市民オーケストラの運営について、2010年に新潟市北区で設立された団体の事例を手がかりに述べる。

2 市民オーケストラが抱える運営上の問題点

市民オーケストラの活動は多様なため、問題点も様々であるが、運営における主な問題点は奏者の不足・場所の不

*芸術・体育教育学系

表1 オーケストラに必要な奏者数の例

	ベートーヴェン 交響曲第7番	ブラームス 交響曲第1番	チャイコフスキー 交響曲第5番	マーラー 交響曲第1番
フルート	2	2	3	4
オーボエ	2	2	2	4
クラリネット	2	2	2	4
ファゴット	2	3	2	3
ホルン	2	4	4	7
トランペット	2	2	2	5
トロンボーン	0	3	3	4
テューバ	0	0	1	1
ティンパニ, 打楽器	1	1	1	5
ハープ	0	0	0	1
第1 ヴァイオリン	10	12	14	16
第2 ヴァイオリン	8	10	12	14
ヴィオラ	6	8	10	12
チェロ	4	6	8	10
コントラバス	4	5	6	8
計 (人)	45	60	70	98

足・資金の不足の3つに集約される。それ以外に、演奏水準の向上といった音楽上の課題も考えられるが、ここでは運営上の問題点について取り扱うこととする。

2. 1 奏者の不足

オーケストラの活動は、非常に多くの演奏者を必要とする。比較的編成の小さなものから大きなものまで、4つの交響曲において必要な奏者数についてまとめたのが表1である。なお、管楽器は同族楽器も含めたものを示してある。

特に弦楽器の編成は指揮者の指示・団体の事情により、奏者数が変化する。また、管楽器もアシスタント奏者が追加されることがある。そのため、必ずしも表1の通りではなく増減されるが、40~100人程度が必要となることがわかる。これに加え、ある程度の演奏能力を有する者が、各楽器にバランスよく配置されなければならない。市民オーケストラの特徴として、仕事・育児等ライフスタイルの変化により、同じ奏者が同じ楽団に常に留まるとは限らず、メンバーが流動的になるという点がある。以上のような事情から、特に大編成の作品では、奏者を揃えることすら難しくなる。

セクション別に考えると、管打楽器よりも、弦楽器の奏者が不足する傾向にある。これは、弦楽器は多くの奏者が必要であること、その習得に長い時間がかかること、管打楽器に比べ、高等学校卒業まで楽器に触れる機会が少ないことが理由にあげられる。例えば新潟県の高等学校において、吹奏楽部が69あるのに対して⁽⁶⁾、オーケストラ部はわずか2つにとどまっている。鈴木が「アマチュア・オーケストラの音楽活動を支えていくための課題の第1は、弦楽器に取り組む人を育て増やす活動をすすめることではないか」⁽⁷⁾というように、特に弦楽器奏者の不足は多くの市民オーケストラにとって非常に大きな問題点といえる。

2. 2 場所の不足

練習場所には、前述したような多くの人数で、音を出せる環境が求められる。また、それが週に1~2回、定期的に確保されることも必要である。大型打楽器、例えば4台のティンパニやバスドラム等の保管場所も考えなければならない。練習場所や保管場所については、学生オーケストラではさほど問題にならないことが多いが、市民オーケストラにとっては不足するものの一つである。

2. 3 資金の不足

市民オーケストラが演奏会に向けて活動をするにあたっては、様々な経費が必要となる。主なものを挙げると、広報用のチラシ・チケット等印刷費、プログラム印刷費、当該オーケストラ外から参加するエキストラ奏者経費、指揮

者・指導者にかかる経費、前項で述べた練習会場経費、そして演奏会会場経費である。特に都市部の大規模なコンサートホールの使用は高額になる場合が多い。作品によっては楽譜にも経費がかかるほか、ティンパニを始め団で所有することが望ましい楽器や、個人が所有する楽器の購入・維持管理にも資金が必要となる。

資金の不足は、奏者・場所の不足と密接に関わっている。団体への所属人数が多ければ資金も集めやすいが、少人数の場合は全体の資金が少ないばかりか、エキストラ奏者にかかる経費も増加することになる。

3 北区フィルハーモニー管弦楽団について

2010年11月新潟市北区において北区フィルハーモニー管弦楽団（以下、北フィルとする）が設立された。2014年6月現在で約80名の団員が在籍し、定期演奏会および会館主催のファミリーコンサートを年に1公演ずつ、その他地域での演奏も数多く行っている。多くの奏者が参加し、精力的に活動しているという点では、市民オーケストラ設立・運営の一つの成功例としてみるができるだろう。この団体が、前章の運営上の諸問題に対してどのように取り組んだのか分析し、市民オーケストラ活動を活性化させる方法について考察する。

3. 1 設立当時の状況

まず、北フィルが設立された当時の新潟県における市民オーケストラの状況について述べる。

筆者が調査を行ったところ、新潟県には6つの市民オーケストラが確認できた。これは、2010年時点で定期的な活動が認められるアマチュアの団体で、学生で構成されるものやアンサンブル団体は除いた数である。中には昭和6年創立⁽⁸⁾という歴史を持つ団体もあった。

次に、都市の規模について確認する。2010年6月1日現在の新潟市北区および隣接自治体の人口は表2の通りである⁽⁹⁾。

北区だけでは77,214人で、市民オーケストラを立ち上げるに必ずしも多いとはいえない数だが、隣接する自治体・行政区を含めると445,804人となり、周辺からの参加も見込めば十分な規模の地域であったことがわかる。

表2 新潟市北区と周辺の人口（2010年6月の推計）

自治体・行政区	人口
北区	77,214
東区	138,745
港南区	69,128
新発田市	101,800
阿賀野市	45,241
北蒲原郡聖籠町	13,676
計	445,804

3. 2 設立までの経緯

それでも、何もない地域に突然オーケストラが設立されたわけではない。その背景には、オーケストラを招致し、鑑賞することを目的とした〈コンサートを楽しむ会〉の存在があった⁽¹⁰⁾。この会は、2002年の新潟県民音楽祭において旧豊栄市（現在の新潟市北区）で開催された、〈オーケストラを楽しもう in とよさか〉の実行委員によって設立されたものである。この団体は地域の体育館を利用して、県内市民オーケストラや学生オーケストラを招致し、2009年までに8回のファミリーコンサートを開催していた。このように、地域でオーケストラに触れようとする、あるいは触れさせようとする文化的土壌が、時間をかけて作られていた。

そして2010年6月、新潟市北区文化会館が「市民が気軽に芸術文化に触れ、親しむ機会を提供するとともに、地域文化の継承・発展、新たな文化創造、自由な表現や地域情報の発信拠点となることを目指して」⁽¹¹⁾オープンした。これは557人収容のホールに加え、100人程度収容可能な練習室が備えられ、大規模な合奏活動が可能な施設である。会館オープンに際し、〈コンサートを楽しむ会〉の一部メンバーから市民オーケストラ設立の声があがり、〈北区フィルハーモニー管弦楽団設置準備会〉にて協議が進められることとなった。

一方で会館側は、開館記念事業として北区オリジナルミュージカルの制作に着手していた。これは一般の市民が出演する舞台として計画されていたため、北区の市民オーケストラが設立されるならば、その団体が演奏を担当するのが望ましい、ということになった。

このように、オーケストラを設立したい市民と会館双方の思惑に一致する部分が見られたため、会館施設内に楽団事務局を設置し、ミュージカル上演までの会場も確保するなど、積極的な支援を受けられることになった。

2010年8月に行われた準備会には筆者も招かれて出席し、それ以降北フィルと積極的に関わることになった。その後も新しいオーケストラの方針について、前述したような問題点の解消も含め議論がなされ、活動理念が次のように決定された。

- (1) 団員が楽しく参加でき、満足できるオーケストラ
- (2) 広く市民の方や子どもたちが音楽の魅力に触れられるオーケストラ
- (3) 音楽に参加したい市民のニーズに応えるオーケストラ

これらの理念が設定された背景には、多くの市民オーケストラが抱える奏者の不足という問題点、北フィルの出発点である〈コンサートを楽しむ会〉の存在、活動拠点となる北区文化会館との結びつきがあると考えられる。(1)には、オーケストラの活動に参加すること自体の魅力を重視することで、より多くの奏者に集まってもらおうという意図がみられる。(2)からは、〈コンサートを楽しむ会〉が培ってきた、地域住民や子どもたちが生の音楽に触れられる機会の提供を、北フィルの使命として考えていることがわかる。これは、北区文化会館の「市民が気軽に芸術文化に触れ、親しむ機会を提供する」という目標とも一致するところである。具体的には、定期演奏会以外のファミリーコンサートや音楽鑑賞教室、出張演奏にも活動の重みを置くことになる。また(3)は、演奏能力の水準にかかわらず、意欲のある市民を広く募り、共に活動していこうという意志が含まれている。

3. 3 奏者の不足の解消に向けて

3つの活動理念とともに、特に奏者の不足に対しては具体的な対応策が講じられた。まず練習日程の設定であるが、近隣で活動する他の市民オーケストラの日程を調査したうえで、それらと重複しないように、土曜日の夜間と設定された。これは、ライフスタイルの不一致で他のオーケストラに参加できなかった奏者の発掘を狙ったものである。

さらに、弦楽器奏者の不足を見越して、〈育成部〉を設置することとした。これはオーケストラの活動に参加したいが楽器の経験がない(または経験が少ない)市民を対象に、初心者から団で指導し、約2年後にオーケストラ本体へ合流してもらうというものである。これは奏者の不足を補うだけでなく、活動理念の「音楽に参加したい市民のニーズに応える」ためのものでもあり、北フィルの特徴的なシステムの一つとなった。

育成部の活動は、オーケストラ本体と同じ時間に、別の場所で行われる。指導はまず弦楽器の経験が長い団員がグループプレッスンを行い、いずれは講師によるレッスンも検討することとした。

3. 4 設立から演奏会へ

10回の準備会を経て、2010年11月6日には入団説明会と設立総会を行ったところ35名の参加があり、その場で29名が入団した。準備会の狙い通り、北区だけではなく周辺自治体・行政区からもメンバーを集めることができた。とはいえ弦楽器はヴァイオリン3名、ヴィオラ1名、チェロ0名、コントラバス2名、育成部6名とまだまだ不足した状態での活動開始となった。管打楽器はファゴットとテューバを除き、各楽器に奏者がいる状態となり、弦楽器との差が改めて浮き彫りになった。翌週の11月13日から練習を開始、徐々に団員は増え、2011年2月には50名に、2011年10月23日の第1回ファミリーコンサートでは66名にまで増加している。このファミリーコンサートでは育成部の18名も舞台上がり、オーケストラ本体とともにベートーヴェン作曲《交響曲第5番》より第4楽章(C.ウッドハウスが容易に演奏できるよう編曲したもの)を演奏した。翌2012年6月10日には第1回定期演奏会を開催し、ファミリーコンサートと定期演奏会を年に1度ずつ開催するスタイルが定着した。同年11月24、25日には設立当初の目標のひとつであった、北区オリジナルミュージカル《春のホタル》(3回公演)の演奏を担当した。これらの公演は北区文化会館ホールの客席ほとんどすべてが埋まるほどの来客で、奏者の意欲が非常に高まる要因となった。定期的な演奏会とミュージカル以外にも、出張演奏など多くの活動を行なっている。2011年から2014年6月までの主要な演奏記録は、表3の通りである⁽¹²⁾。

2011年からの育成部は、ヴァイオリン・チェロそれぞれ専門家がトレーナーとして指導を開始し、前述の第1回ファミリーコンサート、北区音楽祭等に出演した。約2年間の育成期間ののち、2013年からはオーケストラ本体へ合流して活動している。また2013年9月からは育成部第2期が開始され、ヴァイオリン6名、ヴィオラ2名が参加している。特に市民オーケストラに不足しがちな、この2つの楽器の奏者の充実が期待されることである。

打楽器は設立時に楽器がなく、ほぼ全てをレンタルに頼らざるをえない状態であったが、2011年5月に他の音楽団体が解散することになり、バスドラム、スネアドラム、シンバル、タンブリンを譲り受けることができた。ティンパニは、市民の芸術活動支援のためにまず3台が北区文化会館に配備され、2013年9月には北フィルから新潟市へ1台が寄付されて文化会館に置かれることとなり、通常必要な4台が揃うことになった。こうして、打楽器の不足もある程度解消されていった。

また、活動をすすめるうちに、育児とオーケストラ活動の両立が難しいという悩みが聞かれるようになった。これ

表3 北区フィルハーモニー管弦楽団 演奏記録 (2011年から2014年6月の主要なもの)

年	月日	公演名・プログラム
2011年	5月4日	ラ・フォル・ジュネール新潟2011 プレ公演 交流ステージ ベートーヴェン交響曲第6番〈田園〉抜粋 他
	10月23日	第1回ファミリーコンサート モーツァルト：歌劇〈魔笛〉序曲，ビゼー：歌劇〈カルメン〉組曲より 他
	11月6日	北区音楽祭2011 参加（育成部） アーレン：虹の彼方に，ロジャース：ドレミの歌
2012年	6月10日	第1回定期演奏会 J. シュトラウスⅡ：喜歌劇〈こもり〉序曲， グリーク：〈パール・ギェント〉組曲より，ベートーヴェン：交響曲第6番〈田園〉
	10月27日	近隣小学校・全校体験集会での演奏会 ドビュッシー：〈小組曲〉より「小舟にて」 他
	11月4日	北区音楽祭2012 参加（育成部） パーセル：〈アヴデラザール組曲〉より「ロンド」， グリーク：〈パール・ギェント〉組曲より「ソロヴェイグの歌」
	11月24，25日	北区文化会館開館記念，北区オリジナルミュージカル「春のホテル」
	12月16日	第2回ファミリーコンサート スメタナ：連作交響詩〈わが祖国〉より「モルダウ」，アンダーソン：そりすべり， チャイコフスキー：バレエ組曲〈くるみ割り人形〉より「花のワルツ」 他
2013年	7月7日	第2回定期演奏会 ロッシニ：〈セビリアの理髪師〉序曲，シベリウス：組曲〈カレリア〉， ドヴォルザーク：交響曲第9番〈新世界より〉
	10月20日	虹の架け橋 国際交流イベント レノン，マッカートニー：オブ・ラ・デイ，オブ・ラ・ダ，エルガー：愛の挨拶 他
	10月26日	近隣小学校・全校体験集会での演奏会 J. シュトラウスⅠ：ラデツキー行進曲，片野真吾：ふるさとの歌 他
	12月8日	第3回ファミリーコンサート プッチーニ：〈トスカ〉より「歌に生き，愛に生き」，宮川泰：宇宙戦艦ヤマト 他
	12月23日	北区うたの祭典 ロジャース：ミュージカル〈サウンド・オブ・ミュージック〉より
2014年	6月5日	第3回定期演奏会 ワーグナー：歌劇〈ニュルンベルクのマイスタージンガー〉より第1幕への前奏曲， ドリーブ：バレエ音楽〈コッペリア〉抜粋，ベートーヴェン：交響曲第7番

に出来るべく，合奏時には会館の保育室等を利用した託児サポートが，団により開始された。この託児サポートにより，小さな子どもがいる奏者も安心して活動に参加できるようになった。

3. 5 他の文化活動への影響

北フィルの設立と活動は，他の近隣の文化活動にも影響を及ぼしていた。まず2011年，新潟市東区の市民オーケストラ設立にあたり，会館との関係や奏者の養成について，参考事例となっていた⁽¹³⁾。

新潟市内の高校で，放送部の活動として，北フィルとその団員を対象としたドキュメンタリーを制作したところもある。この放送部は北フィルの演奏会の撮影やプロモーション映像の制作なども行い，オーケストラにとっても大変有益な関係が築かれていた。

合唱とのコラボレーションも盛んに行なわれている。2012年から近隣の小学校において全校児童合唱との共演を続けているほか，2013年12月23日開催の〈北区うたの祭典〉では，少年少女合唱団を始めとする4つの合唱団と合同で演奏を行った。

3. 6 今後の課題

設立からわずか4年程度でこのように充実した活動を展開できていることは、市民オーケストラ設立・運営の一つの成功例といっても良いだろう。それでも、課題は少なからずみられる。

まず〈奏者の不足〉に対応した育成部だが、育成期間終了後に行われたアンケートでは、講師の指導には概ね満足しているものの、講師不在時の練習についてはやや不満がみられた。またオーケストラ本体へ合流することに不安を抱く者も多く、市民オーケストラにおいて弦楽器を初期教育から行うことの難しさが窺える⁽¹⁴⁾。練習の全てに講師を招くことは難しいため、今後は団内でより手厚いサポートが必要である。

〈場所の不足〉もないわけではない。拠点となる北区文化会館は他団体の使用希望も多く、常時使える状態ではなくなっている。近隣の公民館や中学校も利用することでなんとか対応しているが、奏者の増加に伴い狭い会場での練習は難しくなっている。

打楽器の問題もある。古典的な交響曲など、定期演奏会のレパトリーにはほぼ対応できるようになっているものの、ファミリーコンサートのためのレパトリー、例えば映画音楽などでは鍵盤打楽器や銅鑼等も必要になり、依然借用が必要な状態が続いている。仮に今後、団で調達できたとしても、保管場所の問題が発生することになるだろう。

演奏の充実も課題の一つといえる。北フィルの活動理念には、演奏の技術に関することは特に書かれていない。しかし、より多くの作品に触れるためには、ある程度の技術が必須となる。またオーケストラの魅力を感じ、それを伝えるためには、より音楽的な充実感や満足感が得られる活動にしていく必要があるだろう。

そもそも、参加者・地域双方にとって魅力的なオーケストラであり続けることは非常に難しいのである。栃木県では、80人いた団員が15年ほどで20人未満になった例もある⁽¹⁵⁾。今後も活動を維持・発展させていくためには、これらの課題に取り組むことが重要である。

4 まとめ

新しい市民オーケストラの設立には、通常〈奏者の不足〉が問題になるはずである。北フィルはその対策として、弦楽器奏者の育成部の設置という特徴的な取り組みのほか、練習日の設定、託児システムといった方策で、オーケストラに参加したいという市民層を掘り起こしていた。

〈場所の不足〉には会館の力強い支援のほか、公民館、近隣中学校を使用することで対応していた。かなり会館や自治体の力を借りている状況だが、主催事業や出張演奏などで地域に貢献している部分があるからこそ、この関係が成立している。

奏者・場所の不足が少ないぶん、〈資金の問題〉はある程度和らげられている。ティンパニ等、使用頻度の高い打楽器が近くにあることや、演奏会開催にあたって助成を受けられていることの影響も大きい。

これら個別の方策が精力的な活動を支えているが、総合的にいえば、奏者・会館・地域のニーズに合致した活動方針を持っていることが成功の要因であろう。

筆者自身、準備会の時点では80名近くのオーケストラになるとは予想していなかった。また演奏会のたびに大変多くの聴衆が集まるのも、驚くべきことである。それだけオーケストラで演奏したい、あるいは聴きたいというニーズがこの地域に存在していたということであろう。

日本には多くの市民オーケストラがあるが、空白になっている地域はまだある。また、これからさらに活動を活発にしたいという団体もあるだろう。様々な地域特有の事情、団体特有の事情はあるだろうが、奏者を確保しただけでは奏者のニーズに、地域や会館からの支援に期待するなら地域や会館のニーズに応える必要がある。その調査と準備を十分行うことで、オーケストラで演奏したい、あるいはオーケストラを聴きたい市民層が発掘でき、有益な活動が可能となるはずである。地域の芸術文化を、市民オーケストラにより活性化させるためにも、本事例は十分参考となりうるだろう。

引用及び参考文献

- (1) JAO 公益社団法人日本アマチュアオーケストラ連盟 <http://www.jao.or.jp/about.html> (2014/9/18アクセス)
- (2) 日本アマチュアオーケストラ連盟 (1996) アマチュアオーケストラ要覧 1995, p.6
- (3) アマチュアオーケストラのサイトFruede <http://www2s.biglobe.ne.jp/~jim/freude/> (2014/9/18アクセス)
- (4) 今井治人 (2006) アマチュア・オーケストラの社会学 佐賀大学文化教育学部研究論文集 vol.11, No.1, p.62
- (5) 藤原義章 (2000) オーケストラの学習 〈音楽の生涯学習——理論と実際〉, 玉川大学出版部, p.227
- (6) 新潟県吹奏楽連盟 (2014) 新潟県吹奏楽連盟広報第63号, pp.2-3
- (7) 鈴木渉 (2008) 成人音楽活動に関する一考察 —アマチュア・オーケストラの活動を中心に— 山形大学紀要 (教育科学) 第14巻 第3号, p.137
- (8) 新潟交響楽団 (1989) 新潟交響楽団創立60周年記念誌, p.14
- (9) 新潟県 市町村別世帯数及び推計人口 (平成22年6月1日現在) http://www.pref.niigata.lg.jp/HTML_Article/640/987/suikai2_220601.0.xls (2014/9/8アクセス)
- (10) 北区フィルハーモニー管弦楽団 設立の経緯とあゆみ <http://www.kita-phil.com/pdf/gaiyou.pdf> (2014/9/10アクセス), p.4
- (11) 北区文化会館 INTRODUCTION <http://www.kitaku-bunkakaikan.com/> (2014/9/10アクセス)
- (12) 北区フィルハーモニー管弦楽団 第3回定期演奏会 (2014/6/5) プログラムから筆者作成
- (13) 新潟市東区 (区長への手紙, 平成23年度, 教育・文化・スポーツ「東区に管弦楽団をつくりたい」) http://www.city.niigata.lg.jp/higashi/kutyoindex/kakunin/h23/sports/h23_08.html (2014/9/9アクセス)
- (14) 北区フィルハーモニー管弦楽団実施 第1期育成アンケート (2013/4/21~5/18実施) 結果
- (15) 星野和夫 (2002) 栃木県アマチュアオーケストラ事情 —活動状況と問題点— 那須大学都市経済研究年報2, p.91

A Study of the Administration of the Amateur Orchestra — A Case of Niigata City, Kita Ward —

Masanori HASEGAWA*

ABSTRACT

Japan is a country where activities of amateur orchestras are flourishing. This is an area of activities that should attract increasing attention into the future in terms of vitalization of regional culture, promotion of art and culture as well as lifelong learning. In this research, the author has taken up an orchestra established in 2010 in Kita Ward, Niigata City as an example and analysed its management and activities over the period of 4 years including the phase in preparation for its establishment. As a result, it became clear that this organization has been successful in conducting lively musical activities through its efforts in solving issues of “players, place and funds”, the lack of which poses a common problem. It was also found that the influences of this orchestra reached to other cultural activities. Even though there are already many amateur orchestras in Japan, there may well be local communities in which orchestras are to be newly established. It would contribute to the lively activities of such organizations if the management is befitting to the needs of participants, audience and local community which should be understood through careful survey.

* Music, Fine Arts and Physical Education